

Q1 誰のお墓なの？いつ造られたの？

誰のお墓なのかわかりません。古墳の大きさなどから、少なくとも乙訓全域を支配していた実力者の墓であったと考えられます。

恵解山古墳は、古墳時代中期（今から約1600年前、都城長岡京ができる約400年前）に造られました。

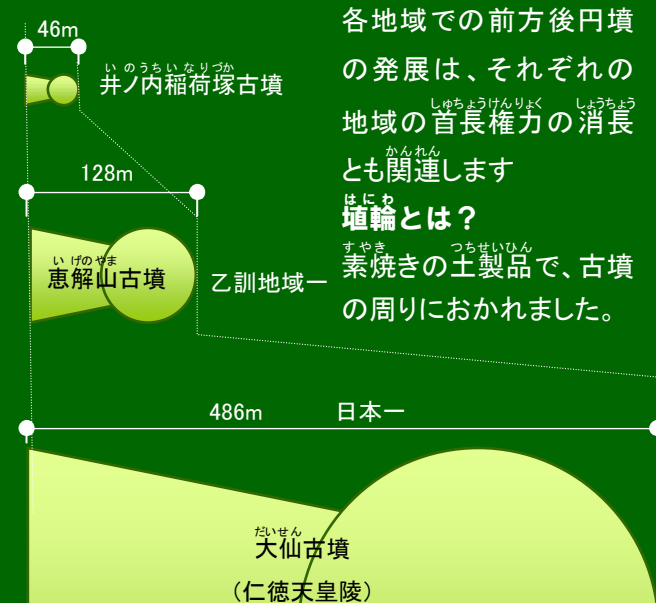


Q2 造られたときの大きさや形は？

古墳の大きさは、全長128m、後円部の直径78m、前方部の幅が76mの前方後円墳です。築かれた当時は、斜面に石が葺かれ、現在のような樹木はありませんでした。平らな所には埴輪が並べられていました。

前方後円墳とは？

円形と方形の墳丘を組み合わせた古墳。日本独特の墳形で、各地の主要な古墳の形です。



Q3 名前の由来は？

恵解山と書いて「いげのやま」と呼びますが、なぜそう呼ぶのか、詳しいことはわかっていません。近くにある勝龍寺というお寺は、山号を恵解山（えげさん）と言います。

古墳の名前と関係があるかもしれません。

昔、地元では、「ヤマ」「ハカ」「モリ」と呼んでいたよ！



水鳥の形をした埴輪（復元高：55cm 前後）



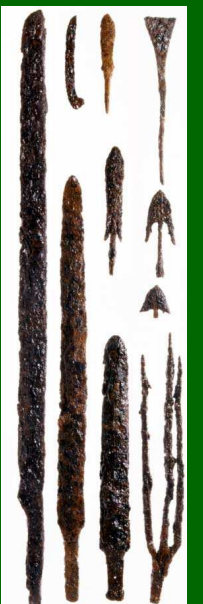
円筒埴輪

Q4 どんな宝が見つかった？

後円部に遺体を埋葬した石室があったようで、管玉が出土しています。前方部では、全国的にも珍しい大量の武器や、漁具を埋納した施設が発見された他に、石製模造品（斧）や鉄製の農具なども出土しています。土師器の小壺や円筒、朝顔形、壺形、形象（蓋・家・盾・鞆・水鳥）などの埴輪が見つっています。



総数約700点の鉄製の武器(発掘時の様子)



直刀短剣など

Q5 なぜ、恵解山古墳を整備するの？

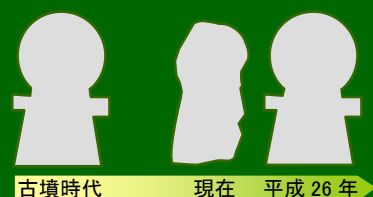
地方の古墳は、それぞれの地域の政治的社会的成立や、大和政権との関わりを示すかけがえのないものです。また、本市の歴史や文化の理解に欠くことができない貴重な資産であるとともに、将来の地域づくりの核ともなるものとして、確実に次世代に継承していくことが大切です。

大切に守られてきた恵解山古墳

恵解山古墳の石室には、和歌山県の紀ノ川周辺や兵庫県高砂市あたりから運ばれた石が使われたことがわかりました。古墳が造られてから約400年後の長岡京築造の時に壊れることなく、約1600年間大切に守られてきました。

ここ100年くらいの間には、開発など周辺の環境の変化もあり、危機的な状況となっていますが、地域の人々により古墳の上につくられたお墓とともに、聖地として大切にされ、現在まで残されました。

1980年に約700点の鉄製品が発見されたことから国史跡となり、平成26年には整備され、かつての姿に近い状態に復元されます。



古墳時代 現在 平成26年

恵解山古墳を大切にする人を増やしたい。恵解山古墳を知り、楽しみながら守り続けましょう！

みんなのMyパークにしよう

- 古墳と音楽を楽しむ（音楽祭）
- 実なる植物で新名所に！
- 身近な憩いの場（お散歩、休憩、遊び）
- 古墳でごはん？ピクニック気分が味わえる！
- 古墳でスポーツ（古墳の規模を体感できるランニングコース）

こんな活動をいっしょにしていって仲間を募集しています。

築造当時のイメージ

また来たい古墳公園に！

- 花を植えて新名所に！古墳と季節の花風景
- 学校の花壇コンテスト

■ガラシャ祭りで恵解山古墳も行列に参加しよう！

■古墳時代の人も経験？古墳の草取りを楽しもう！

■100本の刀を作って並べてみよう！（すくすく教室）

古墳時代を体験しよう！

- 5世紀のビールが飲める！（サントリー協力）
- 勾玉づくり体験教室をやってみよう！

■火起こし大会をやってみよう！

イラストはイメージです。活動内容は、今後決定していきます。